

国 語
2021年2月10日 (水)
一般入学試験

<注意事項>

1. 受験票は机の右上に受験番号が隠れないように置くこと。
2. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
3. 試験中は机の中に何も入れず、机の上には鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム以外の物は出さないこと。
4. 試験中に問題冊子の印刷不備等に気づいた場合は、手を挙げて試験監督に知らせること。
5. 試験中に体調が悪くなった場合は、遠慮せずに早めに試験監督に知らせること。
6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置くこと。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。



文華女子高等学校

第一問 ①から⑫の空欄にあてはまるものを「 」の中から選び記号で答えなさい。

⑫ 「多弁」の対義語は	⑪ 「特殊」の対義語は	⑩ 「介入」の類義語は	⑨ 「沈着」の類義語は	⑧ 「木綿」の読み方は	⑦ 「時雨」の読み方は	⑥	⑤ 首尾	④ 多数決を	③	② 彼は	① 彼女に
<input type="text"/>											
である。	である。	である。	である。	である。	である。	錯誤	首尾	多数決を	大な態度で接する。	に迫る質問をした。	の念を抱いている。
ア 閑静	ア 一般	ア 関係	ア 冷静	ア もくめん	ア ときさめ	ア 指向	ア 一間	ア 採	ア 勸	ア 核心	ア 承継
イ 寡黙	イ 通常	イ 没入	イ 安静	イ きわた	イ さみだれ	イ 志向	イ 一貫	イ 取	イ 歛	イ 革新	イ 象形
ウ 静寂	ウ 万能	ウ 関与	ウ 閑静	ウ もめん	ウ じさめ	ウ 試行	ウ 一環	ウ 獲	ウ 寛	ウ 確信	ウ 小計
エ 静粛	エ 平均	エ 侵入	エ 沈静	エ きめん	エ しぐれ	エ 思考	エ 一冠	エ 執	エ 緩	エ 覚真	エ 憧憬
「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「

⑬ 出し抜いてあつと言わせることを「を明かす」という

「ア腹 イ鼻 ウ耳 エ胸」

⑭ 他人のために、わざわざ危険なことに手を出すことを「火中のを拾う」という。

「ア柿 イ米 ウ芋 エ栗」

⑮ じつと待てばいつか幸運が訪れることを「待てばの日和あり」という。

「ア陸路 イ海路 ウ線路 エ道路」

⑯ 「行く」の謙譲語はである。
「アいたす イ参る ウ申す

エいらっしゃる」

⑰ 「元気で」と同じ品詞の語はである。

「アつまり イ明るい ウ寒く エ便利な」

⑱ 語中において「っ」で表される音をという。

「ア長音 イ拗音 ウ撥音 エ促音」

⑲ 藤原道綱母の書いた平安時代の日記の名前はである。

「ア蜻蛉日記 イ土佐日記 ウ和泉式部日記

エ更級日記」

⑳ 小説に写実主義の必要を説いた「小説神髓」の作者はである。

「ア正岡子規 イ島崎藤村 ウ坪内逍遙 エ樋口一葉」

日本の子どもたちの学力が低下していると言われることがあります。そんなことを言われるといい気分がしないでしょう。私が、中学生だとしても、新聞記事やテレビのニュースでそのようなことを聞かされたら、おもしろくありません。しかし、この機会に、少しだけ気を鎮めて、「学力が低下した」とはどういうことなのか、考えてみましょう。そもそも、低下したとされている①「学力」とは何をさしているのでしょうか。「学力って、試験の点数のことでしょうか。」と答える人が、ほとんどだと思います。本当にそうでしょうか。「学力」とは「試験の点数」のことなのでしょうか。私はそうは思いません。試験の点数は数値です。数値ならば、他の人と比べたり、個人の経年変化をみたりするうえで参考になります。でも、学力とはそのような数値だけで捉えるものではありません。「学力」という言葉をよく見てください。訓読みしたら「学ぶ力」になります。私は学力を「学ぶことができる力」、「学べる力」として捉えるべきだと考えています。数値として示して、他人と比較したり、順位をつけたりするものではない。私はそう思います。

(②)、ここに「消化力」が強い人がいるとしましょう。ご飯をおなかいっぱいにつめ込んでも、食休みもしないで、すぐに次の活動に取りかかれる人はまちがいに「消化力が強い」といえます。「消化力が強いです。」と人にも自慢できます。(③)、それを点数化して他人と比べたりしようとはしないはず。 「睡眠力」や、「自然治癒力」というものも、同様のものだと思います。どんなときでもベッドに潜り込んだら、数秒で熟睡状態に入れる人は「睡眠力が高い」といえるでしょう。この力は健康維持のためにストレスを軽減するうえでも、きわだって有用ですが、睡眠力を他人と比較して自慢したり、順位をつけたりすることは普通しません。怪我をしてもすぐに傷口が塞

がってしまう自然治癒力も生きるうえでは、おそらく学力以上に重要な力でしょうが、その力も他人と比較するものではありません。私は「学力」もそういう能力と同じものではないかと思うのです。

「学ぶ力」は他人と比べるものではなく、個人的なものだと思います。「学ぶ」ということに対して、どれくらい集中し、夢中になれるか、その強度や深度を表するためにこそ「学力」という言葉を用いるべきではないでしょうか。

(④)、それは消化力や睡眠力と同じように、「昨日の自分と比べたとき」の変化が問題なのだと思います。昨日よりも消化がいいか、一週間前よりも寝つきがよいか、一年前よりも傷の治りが早いかな、その時間的変化を点検したときにはじめて、自分の身に「何か」が起きていることがわかります。もし「力」が伸びているなら、それは今の生き方が正しいということですし、「力」が落ちていけば、それは今の生き方のどこかに問題があるということなのです。

⑤人間が生きていくために本当に必要な「力」についての情報は、他人と比較したときの優劣ではなく、「昨日の自分」と比べたときの「力」の変化についての情報なのです。そのことをあまりに多くの人が忘れているようなので、ここに声を大にして言っておきたいと思います。自分の「力」の微細な変化まで感知されている限り、私たちは自分の生き方の適不適を判定し、修正を加えることができます。

「学ぶ力」も、そのような時間的変化のうちにおいてのみ、意味を持つ指標だと私は思います。そのうえで「学ぶ力」とはどういう (a) 条件で「伸びる」ものなのか、具体的にみてみましょう。

⑥「学ぶ力が伸びる」ための第一条件は、自分には「まだまだ学ばなければならないことがたくさんある」という「学ぶ足りなさ」の自覚があること。「無知の自覚」といつてもよい。これが第一です。

「私はもう知るべきことはみな知っているの、これ以上学ぶことはない。」と知っている人には「学ぶ力」がありません。このような人が、本来の意味での「学力がない人」だと私は思います。物事に興味や (b) カンシンを示さ

ず、人の話に耳を傾けないような人は、どんなに社会的な地位が高くても、有名な人であっても「学力のない人」です。

第二の条件は、教えてくれる「師（先生）」を自ら見つけようとする事。

学ぶべきことがあるのはわかっているのだけれど、誰に教わったらいいかわからない、という人は（c）残念ながら「学力がない人」です。いくら意欲があっても、これができないと学びは始まりません。

ここでいう「師」とは、別に学校の先生である必要はありません。書物を読んで、「あ、この人を師匠と呼ぼう。」と思って、会ったことのない人を「師」に見立てることも可能です（だから、会っても言葉が通じない外国の人だつて、亡くなった人だつて、「師」にしているのです）。街行く人の中に、ふとそのたたずまいに「何か光るもの」があると思われた人を、瞬間的に「師」に見立てて、その人から学ぶということでも、もちろんかまいません。生きて暮らしていれば、いたるところに師あり、ということになります。ただし、そのためには日頃からいつもアンテナの感度を上げて、「師を求めるセンサー」を機能させていることが必要です。

第三の条件、それは「教えてくれる人を『その気』にさせること」です。

こちらには学ぶ気がある。師には「教えるべき何か」があると思います。条件が二つ揃いました。しかし、それだけでは学びは起動しません。もう一つ、師が「教える気」になる必要があります。

昔から、師弟関係を描いた物語には、必ず「入門」をめぐるエピソードがあります。何か（武芸の奥義など）を学びたいと思っていた者が、達人に弟子入りしようとするのですが、「だめだ。」とすげなく断られる。それでも諦めずについて行って、さまざま（d）シレンの末に、それでもどうしても教わりたい、という気持ちの本気であることが伝わると、「しかたがない。弟子にしてやろう。」ということになる。そのような話は数多くあります。

では、⑦のようにしたら人は「大切なことを教えてもいい」という気になるのでしょうか。

例えば、「先生、これだけ払うから、その分教えてください。」といって札束を積み上げるような者は、普通弟子にしてもらえません。師を利益誘導したり、おだてたりしてもだめです。だいたい、金銭で態度が変わったり、ちやほやされると舞い上がりたりするような人間は、「師」として（e）ソソクイする気はこちらのほうがなれません。

師を教える気にさせるのは、「お願いします。」という弟子のまっすぐな気持ち、師を見上げる真剣な⑧まなざしだけです。これはあらゆる「弟子入り物語」に共通するパターンです。このとき、弟子の側の才能や経験などは、問題になりません。なまじ経験があつて、「私はこのようなことを、こういうふうな方法で習いたい。」というような注文を師に向かってつけるようなことをしたら、これもやはり弟子にはしてもらえません。それよりは、真っ白な状態がいい。まだ何も書いていないところに、白い紙に黒々と墨の跡を残すように、どんなこともどんどん吸収するような、学ぶ側の「無垢さ」、師の教えることはなんでも受け入れますという「開放性」、それが「師をその気にさせる」ための力であり、弟子の構えです。たとえ、書物の中の実際に会うことができない師に対しても、この関係は同様です。同じ本を読んでも、教えてもらえる人と、もらえない人がいるのです。

⑨「学ぶ（ことができる）力が伸びる」ために必要なのは、この三つです。繰り返します。

第一に、「自分は学ばなければならない」という己の無知についての痛切な自覚があること。

第二に、「あ、この人が私の師だ。」と直感できること。

第三に、その「師」を教える気にさせるひろびろとした開放性。

この三つの条件を一言で言い表すと、「私は学びたいのです。先生、どうか教えてください。」というセンテンスになります。数値で表わせる成績や点数などの問題ではなく、たったこれだけの言葉。これが私の考える「学力」です。

このセンテンスを素直に、はっきりと口に出せる人は、もうその段階で「学力のある人」です。

逆に、どれほど知識があろうと、技術があろうと、これを口にできない人は「学力がない人」です。それは英語ができないとか、数式を知らないとか、そういうことではありません。「学びたいのです。先生、教えてください。」という簡単な言葉を口にしようとはしない。その言葉を口にすると、とても「損をした」ような気分になるので、できることなら、一生そんな台詞は言わずにすませたい。誰かにものを頼むなんて「借り」ができるみたいで嫌だ。そのように思う自分を「プライドが高い」とか「気骨がある」と思っている。それが⑩「学力低下」という事態の本質だろうと私は思っています。

自分の「学ぶ力」をどう伸ばすか、その答えはもうお示ししました。皆さんの健闘を祈ります。

(内田樹『学ぶ力』より)

問一 傍線部①『学力』とは何をさしているのでしょうか」とありますが、筆者の考える学力について述べている一文をそのまま抜き出さない。

問二 (②) ・ (③) ・ (④) に入る語として適切なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

「ア つまり イ そして ウ したがって エ 例えば オ しかし」

問三 傍線部⑤「人間が生きていくために本当に必要な『力』についての情報」とは、どのようなものを説明している文として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 数値化されたもので、他の人と比較して優劣を競うための情報である。
- イ 数値化することで順位をつけ、自分の学力がどの程度なのかを知るための情報である。
- ウ 自分の「力」の微細な変化を感知することで自分の生き方の適不適を判断し、修正を加えるための情報である。
- エ 多くの人が忘れているが、他人とは比較せず、自分の時間的変化を記録するための情報である。

問四 傍線部⑥ 『学ぶ力が伸びる』ための第一条件」を示している語句を本文中から五文字で答えなさい。

問五 傍線部⑦ 「どのようにしたら人は『大切なことを教えてもいい』という気になるのでしょうか」とありますが、その答えとして適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 師として礼を十分に尽くし、謝礼金をたくさん払うということを明言する。
- イ 師のすること全てを、とにかく何でもほめて、ちやほやしたりおだてて気持ちよくする。
- ウ 師とする人に自分の才能や経験をしっかりとアピールし、教え方も指定しておく。
- エ 「お願いします。」というまっすぐな気持ち、師の教えは何でも受け入れるという「開放性」を持つ。

10

問六 傍線部⑧ 「まなざし」の意味として適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- 「ア 目つき イ 瞳 ウ 眉 エ 目力」

問七 傍線部⑨ 『学ぶ』(ことができる)力が伸びる』ために必要」とありますが、その条件を一言で言い表わす一文のはじめの五文字を抜き出さない。(かぎカッコ・句読点も含める。)

問八 筆者の考える傍線部⑩ 『学力低下』という事態の本質」とはどういうことですか。本文中の語句を用いて、簡潔に答えなさい。

問九 二重傍線部(a)から(e)の漢字は読み方をひらがなで書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。

11

第三問 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

四月から中学生になる原田巧たくみは父親の病氣療養のため、母親の真紀子、弟の青波とともに、新田市にある祖父の家へ引越してきた。野球好きの巧は同級生の永倉豪こうとキャッチボールをする約束をしていたが、自分に憧れて野球をやりたいがる甘えん坊な弟に腹が立ち、神社で弟の大切なボールを投げ捨ててしまう。

下腹が張って苦しくなるほどイチゴを食べて、草の上に少し寝ころがってから、家に帰った。もう薄暗うすぐらくなっていた。

玄関でくつを（a） いでいた巧の前に、真紀子が立った。

「お帰り」

「うん」

「ひとり？」

くつにかけた手をとめた。①母の声が少し震えているような気がした。

「青波、まだ帰ってないのよ」

壁の時計を見る。六時三十五分。

「こんな時間なのに、まだ帰ってないの。巧と一緒にいるんだとばかり思ってたんだけど、違うの？」

「いっしょじゃないよ。おれ、ずっと永倉たちといたから」

真紀子の②表情が硬くなる。

「そう、こまった子だわ。こんなにおそくまで何してるのかしら」

真紀子は、ぬれてもない手をエプロンで何度もふいた。

「今まで、こんなことなかったんだけど……」

「良太とか真晴とか、友達のところだろ」

真紀子が首を振る。

「さつきね。買い物に出たの。ちょうど良太くんたちが自転車で通りかかってね。きいてみたけど、今日はぜんぜん遊んでないって。ほかに心当たりない、巧？」

では、青波はずっと神社にいるのだろうか。まだ、ボールを探しているのだろうか。

③まさかな。心の中でつぶやいてみる。雑木におおわれていた（b） 境内はもう、真っ暗になっているはずだ。ボールなんか見えるはずがない。

「腹がへったら帰ってくるよ」

そう言うってから、④巧は を飲みこんだ。水槽がある。そこに白い腹を見せて、ブルーギルが浮かんできた。朝、えさのかわりにアマガエルを一匹、放りこんでやった。瞬きする程の瞬間に、魚はカエルを飲みこみ、水槽の底に

A いた。それが今、水面に B いる。生きていたとき、ぎらぎらして見えた目が白く

こびっていた。一瞬、 、背中から足の先までが C しびれた。

「捜してくるよ」

くつをそのまま、つつかける。

「心当たりあるの、巧」

母には答えない。返事のかわりにドアをたたきつけるようにしめた。

「わお、びっくりした。どないしたんじや、原田」

玄関の外に、豪がいた。さつき、別れたばかりだった。

「永倉こそ、何してんだ。他人ひとの家の玄関先で」

「いやいや、言い忘れたことがあってな。あさつてのことなんじやが」

巧は豪をおしのけた。あさつてのことなんかどうでもいい。自転車にまたがる。豪の大きな手がハンドルをおさえた。

「おい、ほんまにどないしたんじや」

巧は、ハンドルの上の手を見つめた。門灯の明かりの中で、その手は白く光って見えた。

「永倉の手つて、ずいぶんでかいな」

豪が手を引っこめる。

「何言っとるんじや。なんかあつたんか？」

「青波が」

「青波が？」

「まだ、帰ってこないんだよ」

豪が、えっ、と小さな声を出した。

「おれは(c)ヤサヤサしいお兄さんだから、捜さがしてきてやるんだよ。な、母さん」

玄関からのぞいた真紀子に手を振る。顔は見えない。門を出ると、全速力で自転車をこいだ。後ろから、豪がつい

てくる。ブレーキをかける。

「なんでついでくるんだよ」

⑤いっしょに、捜しちやる」

「いいよ、そんなおおげさなもんじやないから、おまえ、忙いそしいんだろ。おれひとりで(d)充ま分まだよ」

「原田、おまえ神社の森のこと、なんも知らんじやろ。あそこは小そうても山なんじやぞ。山というのは、迷いこんだら出るんが難しいんじや。おまえだって、初めて会あうたとき、道がわからんでへんなどこに出てもうたじやろ」

「へんなどこつて、ちゃんと池のそばに出たから……」

「あの池、囲くわいが無いんじや。昼間ならええけど、こんな暗くろうになったら、水の色が暗くろいけん、周りまわりと区別くわがつかん。日がくれてしもうたら、おれたちでも近づかんようにしとる。青波あおなみみたいに、なんもわからん奴やつが迷まようて、池のそばに出たら」

⑥豪は、言葉を切る。巧はハンドルを(e)ニにギりしめると、力ちからいっぱいペダルをふんだ。

(あさのあつこ『バッテリー』より)

※ブルーギル：北アメリカ原産の、肉食性の淡水魚。分布は全国に広がり、在来種に深刻な影響を与えている。

問一 二重傍線部（a）から（e）について漢字は読み方をひらがなで書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。

問二 傍線部①「母の声が少し震えてい」たのはなぜか。最も適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア おそい時間になっても帰宅しない息子が心配だったから。
- イ おそい時間まで友達と遊んでいる息子が腹立たしかったから。
- ウ 家の手伝いをせずに外で寝ころがっていた息子が不満だったから。
- エ 家の手伝いをせずに外で遊んでばかりいる息子に怒っていたから。

問三 傍線部②「表情が硬くなる」とはどのような表情か。最も適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 嫌悪を抱いた表情
- イ 恐怖におののいた表情
- ウ 怒りで険しくなった表情
- エ 緊張でこわばった表情

問四 傍線部③「まさかな」とあるが、巧が青波はもう神社にいないだろうと思おうとした理由を表す一文を探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。（ただし、句読点を含む。）

問五 傍線部④「つばを飲み込んだ」には巧のどのような心情が表れているか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 今朝まで生きていて目をぎらぎらさせていたブルーギルが死んでしまい、悲しむ気持ち。
- イ カエルを飲み込んだことで死んだブルーギルへの嘲笑の気持ち。
- ウ ブルーギルのように自分のせいで弟が危険な目に遭っているのではないかと思い、緊迫する気持ち。
- エ ブルーギルのように、弟も懲らしめてやりたいという憎しみの気持ち

問六

A

 から

C

 に入る言葉として、最も適切な組み合わせはどれか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア A 浮かんで B しずんで C 温かく
- イ A 浮かんで B しずんで C 冷たく

- ウ Aしずんで B浮かんで C温かく
エ Aしずんで B浮かんで C冷たく

問七 傍線部⑤「いっしょに、捜しちやる」とあるが、なぜ豪は断る巧に反対し、いっしょに捜すというのか。本文の語句を用いて二十字以内で答えなさい。

問八 傍線部⑥「豪は、言葉を切る。」とあるが、豪が続けて言いたかったことは何か。十五字以内で答えなさい。

【模範解答】

受験番号	1 2 3 4
氏 名	文華 花子
得 点	1 0 0

第一問

①	エ	②	ア	③	ウ	④	ア	⑤	イ	⑥	ウ	⑦	エ	⑧	ウ	⑨	ア	⑩	ウ
⑪	ア	⑫	イ	⑬	イ	⑭	エ	⑮	イ	⑯	イ	⑰	エ	⑱	エ	⑲	ア	⑳	ウ

第二問

問一
私は学力を「学ぶことができる力」、「学べる力」として捉えるべきだと考えています。

問二
② エ
③ オ
④ イ

問三
ウ
問四
無 知 の 自 覚
問五
エ

問六
ア
問七
「 私 は 学 び

問八
「学びたいのです。先生、教えてください。」という言葉を口にすることはプライドが高く気骨のある自分にはできないと思うこと。

問九
a じょうけん
b 関心
c ざんねん
d 試練
e 尊敬

第三問

問一
a 脱いで
b けいだい
c 優しい
d じゅうぶん
e 握り

問二
ア
問三
エ

問四
雑 木 に お お
る は ず だ 。

問五
ウ
問六
エ

問七
巧 は 神 社 の 森 の こ と を 何 も 知 ら な い か ら 。

別解 山 は 迷 い こ む と 出 る の が 難 し い か ら 。

問八
池 に 落 ち て し ま う と い う こ と 。

別解 とても危険だといふこと。